

厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等 レギュラトリーサイ
エンス政策研究事業)

薬局・薬剤師の業務実態の把握と
そのあり方に関する調査研究

平成 27 年度 総括・分担
研究報告書

研究代表者 桐野 豊

平成 28 (2016) 年 3 月

目 次

. 総括研究報告 薬局・薬剤師の業務実態の把握とそのあり方に関する調査研究	1
研究代表者 桐野 豊 徳島文理大学学長	
. 分担研究報告書 薬局・薬剤師の適正業務に関する調査研究	15
分担研究者 益山 光一 東京薬科大学薬学部薬事関係法規教授	
. 研究成果の刊行に関する一覧表	21
. 参考資料	23

厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)
総括研究報告書

薬局・薬剤師の業務実態の把握とそのあり方に関する調査研究

研究代表者 桐野 豊 徳島文理大学学長

研究要旨

厚生労働省が公表した「患者のための薬局ビジョン」において、薬局・薬剤師は、従来の対物業務から、在宅対応も含めた継続的な服薬状況・副作用等のモニタリング、それを踏まえた医師へのフィードバックや処方提案、残薬解消など、患者が医薬分業のメリットを実感できる対人業務へのシフトを図ること、さらに、薬局におけるタイムスタディ調査を実施し、調剤技術の進展、機械化の状況など、最新の状況に応じた薬剤師業務の実態を把握することについて言及されている。また、今後、「患者のための薬局ビジョン」実現のためのロードマップや具体的な施策を講じる上での留意点等を検討することとしており、薬局における業務について対人業務へのシフトを図るため、対人業務そのものの推進と同時に、現在、負担が大きくなっている業務の改善方法を追究に向けて検討が必要となっている。

本研究では、タイムスタディ調査において、処方箋を受け付けてから薬剤を患者に交付し、記録を記入するまでの調剤に関連する業務(調剤業務)だけでなく、薬局の管理業務を含め薬局における業務実態全体について調査を行うとともに、調剤業務については、過去の先行調査との比較可能性を確保できるよう配慮しつつ、処方箋1枚当たりの業務時間を明らかにすることとして実施した。またタイムスタディ調査の実施に当たっては、適宜関係団体の協力を仰ぎながら、薬剤師数等に偏りが生じないよう調査対象薬局の選定を行い、薬局の特徴や地域の違いを配慮の上、10薬局で調査を実施し、薬局・薬剤師の業務実態の把握を行った。

薬局・薬剤師の適正業務については、残薬等の先駆的な取組みを実施している地区薬剤師会の協力を得て、アンケート調査を実施し、タイムスタディ調査結果との乖離や今後の調査のあり方等について検討した。

これらを通じて、現状での薬局・薬剤師の業務実態を明らかにし、適正化可能な業務内容や在宅対応等が増える中での今後の薬局業務のあり方について検討を行った。

研究分担者氏名・所属機関名・職名

益山光一 東京薬科大学薬学部教授

A. 研究目的

我が国では、他国に類を見ないほど少子高齢化が急速に進行している。団塊の世代が75歳以上となる2025年(平成37年)以降は、国民の医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれており、厚生労働省では、地域包括ケアシステムの構築を推進している。

このような中、薬局に従事する薬剤師は15万人を超え、調剤や医薬品供給等を通じて、公衆衛生の向上・増進に寄与し、国民の健康な生活を確保する役割を担う重要な社会資源と位置づけられる。平成27年10月23日には、厚生労働省が医薬分業の原点に立ち返り、現在の薬局を患者本位のかかりつけ薬局に再編するため、「患者のための薬局ビジョン」を公表した。このビジョンにおいて、薬局は服薬情報の一元的・継続的な把握とそれに基づく薬学的管理・指導や24時間対応・在宅対応、といった

機能を備えること、また、従来の対物業務から、在宅対応にも通じた継続的な服薬状況・副作用等のモニタリング、それを踏まえた医師へのフィードバックや処方提案、残薬解消など、患者が医薬分業のメリットを実感できる対人業務へのシフトを図ること、さらに、薬局におけるタイムスタディ調査を実施し、調剤技術の進展、機械化の状況など、最新の状況に応じた薬剤師業務の実態を把握することについて言及されている。

また今後、「患者のための薬局ビジョン」実現のためのロードマップや具体的な施策を講じる上での留意点等を検討することとしており、薬局における業務について対人業務へのシフトを図るため、対人業務そのものの推進と同時に、現在、負担が大きくなっている業務の改善方法を追究に向けて検討が必要となっている。

本研究では、処方箋を受け付けてから薬剤を患者に交付し、記録を記入するまでの調剤に関連する業務（調剤業務）だけでなく、薬局の管理業務を含め薬局における業務実態全体について調査を行った。調剤業務については、過去の先行調査との比較可能性を確保できるよう配慮しつつ、処方箋1枚当たりの業務時間を明らかにすることとしてタイムスタディ調査を実施した。また、タイムスタディ調査の実施に当たっては、適宜関係団体の協力を仰ぎながら、薬剤師数等に偏りが生じないように調査対象薬局の選定を行い、薬局の特徴や地域の違いを配慮の上、10薬局で調査を実施し、薬局・薬剤師の業務実態の把握を行った。

薬局・薬剤師の適正業務については、残薬等の先駆的な取り組みを実施している地区薬剤師会の協力を得て、アンケート調査を実施し、タイムスタディ調査結果との乖離や今後の調査

のあり方等について検討を行った。

これらを通じて、現状での薬局・薬剤師の業務実態を明らかにするとともに、適正化可能な業務内容や在宅対応等が増える中での今後の薬局業務のあり方について検討を行った。

なお、タイムスタディ調査の実施については、過去に薬局のタイムスタディ調査を行った実績のあるみずほ情報総研に委託して実施した。

B．研究方法

1．タイムスタディ調査の実施

(1) 薬局選定方法等

本調査は、薬局周辺の人口の集中度(都市型、地方型)、薬局の立地等の課題(病院の門前、地域の薬局)、ドラッグストア併設等の特徴の違う薬局を関係団体の協力の下、10薬局選定し、各薬局における業務状況のヒアリングを行い、また、保険調剤薬局の店舗内で、1処方せんに係る受付、調剤、服薬指導などの所要時間を調査員3~4名によりストップウォッチを使って計測(タイムスタディ調査)を実施した。

(2) 各薬局の概要

各薬局の概況については、次のとおり。

A 薬局(神奈川県座間市)

隣接の病院(一般151床&精神155床)のいわゆる門前薬局で、カウンター2つ、パーティション有り。

・薬剤師3人、事務職員1人で処方箋60~70枚程度/日。

・自己血圧測定器(A&D Medical)有り。

・OTC(ロキソニン、アレグラ)有り。衛生材料(マスク、絆創膏等)、医薬部外品(シャンプー、石鹸、スキンミルク、スプレー式殺虫剤等)、検査食(エニマクリンP)、健康食品(サプリメント、栄養ドリンク等)、お菓子有り。

・レセコンと薬情、薬袋、シール、調剤録、領

収書作成システムは一体となっている。処方箋内容は二次元バーコードで読み込み(完全に読み込まないので手修正)。薬歴は紙管理。自動分包機は錠剤用と散剤用で1台ずつあるが、レセコンとは連動せず。

・在宅は月1~2日にまとめて、法人の在宅医療専任の薬剤師チームが対応。ただし、各店舗で対応することもある。

・基準調剤加算1、後発医薬品調剤体制加算1。麻薬免許有り。

B 薬局 (愛知県尾張市)

・隣接の病院(一般250床)のいわゆる門前薬局で、カウンター3つパーティション有り。

・薬剤師3.5人、事務職2人で処方箋90~100枚程度/日。

・血圧測定器(A&D Medical)有り。病院配布の血圧手帳の利用率が上がってきており、患者から依頼されれば薬局でも提供している。

・OTC(ロキソニン、ベンザブロック、バファリン、龍角散、イソジン、イチジク浣腸、メンソレータム、ムヒ、フルコート、オイラックス、ノーシン、サンティア、Vロート、オロナイン、タケダ漢方便秘薬、正露丸、太田胃散、百草丸、ピオフェルミン、白光、下呂膏、サロンシップ、アンメルツヨコヨコ、オキシドール、マキロン)、衛生材料(マスク、絆創膏、包帯、サポーター、綿・綿棒、オブラート等)、健康食品(サプリメント)、お菓子、お茶、スープ、酢飲料有り。

・レセコンと薬歴、薬情、調剤アシストシート、薬袋、シール、調剤録、領収書作成システムは一体となっている。処方箋内容は手入力。自動分包機は錠剤用と散剤用で1台ずつあるが、レセコンとは自動連動していない。

・在宅は有料老人ホーム2施設50人程度(どちらの施設も2診療所の医師が主治医)。週1

~2日は両主治医の回診に同行。介護相談応需の掲示有り。介護用品の販売・レンタルも行っている。

・基準調剤加算1、後発医薬品調剤体制加算1。麻薬免許有り。

C 薬局 (栃木県足利市)

・隣接の診療所(内科、循環器内科、消化器内科)のいわゆる門前薬局で、カウンター4つ、パーティション有り。

・薬剤師4.5人、管理栄養士1人、登録販売者1人、事務職員1人で処方箋80~150枚程度/日。

・無菌調剤室有り。

・血圧測定器(テルモ)有り。

・OTC(要指導、1類、指定2類、2類、3類)、高度管理医療機器(自己血糖測定器)、医薬部外品、健康食品、化粧品等多数有り。

・レセコンと薬歴、薬情、薬袋、薬袋シール、お薬手帳シール、調剤録、領収書作成システムは一体となっている。薬歴にはOTCも入力。処方箋内容はQRコードで読み込み。自動分包機は錠剤用と散剤用で1台ずつあるが、レセコンとは自動連動していない。散剤監査システム有り。軟膏調剤機有り。

・在宅は10人程度(施設無し)。

・基準調剤加算1、後発医薬品調剤体制加算2。麻薬免許有り。

D 薬局 (東京都狛江市)

・隣接の病院(一般病床587床、精神病床20床、結核病床31床内科)のいわゆる門前薬局で、カウンター6つパーティション有り。診療所(整形外科)、歯科診療所も各1カ所ずつ近くにある。

・薬剤師12人、事務職員6人で処方箋240枚

程度/日。

- ・ 血圧測定器（シチズン）有り。
- ・ OTC、衛生材料、医薬部外品、お菓子等有り（OTCのみ買いに来る人もいる）。
- ・ レセコンと薬歴、薬情、薬袋、シール、調剤録、領収書作成システムは一体となっている。処方箋内容は手入力。自動分包機は錠剤用と散剤用で1台ずつあるが、レセコンとは自動連動せず。自動半割機有り。
- ・ 在宅は80人程度（2施設）。
- ・ 基準調剤加算無し（特例）、後発医薬品調剤体制加算1。麻薬免許有り。

E 薬局（福島県郡山市）

- ・ 医療モールが多少近くにあるが、医療モール内に別の門前薬局有り。処方箋の集中率は8%。カウンター2つパーティション有り。
- ・ 薬剤師2人で処方箋10～20枚程度/日（FAX処方箋も数件ある）。事務員はいない。
- ・ ドラッグストア併設だが、薬局内には要指導医薬品と1類のOTC配置。介護用品有り。
- ・ 携帯電話を使ったEPARKの処方箋予約受付システム（処方箋の写メを送って、準備ができると連絡が入る）、自己血液検査のじぶんからだクラブ（健康ライフコンパス社）あり。がんリスクチェッカーの取り寄せも対応。
- ・ レセコンと薬情、薬袋、シール、調剤録、領収書作成システムは一体となっている。薬歴は紙管理。処方箋内容は手入力。自動分包機は錠剤と散剤の兼用機が1つあるが、レセコンとは自動連動せず。
- ・ 在宅業務は実施していない（対応は可能）。
- ・ 基準調剤加算無し、後発医薬品調剤体制加算2。麻薬免許有り。

F 薬局（兵庫県川西市）

・ 近隣には医療機関は無く、在宅訪問を主業務とした面展開の薬局で、カウンターは2つ、パーティションは無い。

・ 薬剤師は16人、事務職員7人で、処方箋は130枚/日程度であり、外来の患者は少なく、過半数を在宅訪問の処方箋が占める。

・ OTCは豊富に置いてある。漢方も多く置いてある。

・ 薬局店舗は1階部分であるが、2階に介護系のサービス事業所がある。このため、1階部分では介護用品も販売している。

・ 無菌調剤室有り。

・ レセコン、薬情、薬袋、シール、調剤録、領収書作成システムは一体となっている。自動分包機が1台あるが、レセコンとは自動連動せず。

・ 在宅は訪問先ごとに担当者制。

・ 基準調剤加算2、後発医薬品調剤体制加算1。麻薬免許有り。

G 薬局（東京都渋谷区）

・ 都心の大型商業ビルに入居しており、商業ビル内には、診療所1件、歯科診療所2件が入居しているものの、近接はしていない。薬局は、カウンター2つ、パーティション有り。

・ 薬剤師4人、事務職員1人で処方箋60枚/日程度。

・ ドラッグストア併設で、薬局内には要指導医薬品と1類のOTCが配置されている。

・ レセコンと薬情、薬袋、シール、調剤録、領収書作成、薬歴システムは一体となっている。自動分包機は1つあるが、レセコンとは自動連動せず。

・ 在宅業務は実施していない。

・ 基準調剤加算1、後発医薬品調剤体制加算なし、麻薬免許有り。

H 薬局（福島県福島市）

- ・隣接の病院（一般 189 床・療養 44 床、うち回復期 91 床）のいわゆる門前薬局で、カウンター4つ、パーティション有り。
- ・薬剤師 4 人、事務職員 3 人で処方箋 150 枚程度/日。
- ・薬局内には多数の OTC、衛生材料、医薬部外品、お菓子等有り。
- ・血圧測定器 3 台（テルモ、A&D Medical、オムロン）有り。
- ・レセコンと薬歴、薬情、薬袋、シール、支援シート、調剤録、領収書作成システムは一体となっている。自動分包機は錠剤と散剤の各 1 つずつあるが、レセコンとは自動連動せず。
- ・在宅業務は 5 人程度実施。
- ・基準調剤加算 1、後発医薬品調剤体制加算 2。麻薬免許有り。

I 薬局（富山県高岡市）

- ・隣接の診療所（内科、消化器内科、内分泌内科）のいわゆる門前薬局で、カウンター2つ、パーティション無し。
- ・薬剤師 5 人、事務職員 1 人で処方箋 70 枚程度/日。
- ・薬局内には OTC（オロナイン、液体ムヒ）、衛生材料（マスク、バンドエイド）、化粧品、食品・菓子、清涼飲料水有り。
- ・血圧測定器無し。
- ・レセコンと薬歴、薬情、薬袋、シール、調剤録、領収書作成システムは一体となっている。自動分包機は錠剤と散剤の兼務機 2 台。自動監査機器が 1 台（バーコードや画像認識で監査）。
- ・在宅業務無し。
- ・基準調剤加算 1、後発医薬品調剤体制加算 1。麻薬免許有り。

J 薬局（東京都練馬区）

- ・隣接の診療所（内科、外科、小児科、整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、心療内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、消化器外科）のいわゆる門前薬局で、カウンター3つ、パーティション有り。カウンターは全てイス席。
- ・薬剤師 5 人、事務職員 2 人で処方箋 120～150 枚程度/日。
- ・薬局内には OTC（要指導、1 類、2 類、3 類）有り。
- ・血圧測定器有り。
- ・レセコンと薬歴、薬情、薬袋、シール、調剤録、領収書作成システムは一体となっている。処方箋は手入力。自動分包機は錠剤と散剤で 1 台ずつ。自動監査機器無し。
- ・在宅業務 3 名（施設無し）
- ・基準調剤加算 2、後発医薬品調剤体制加算なし。麻薬免許有り。

以上の 10 施設についての実施日程は下記のとおり。

日付	薬局名	所在地	調査時間
2/23	A 薬局	神奈川県座間市	9：00～18：00
2/24	B 薬局	愛知県尾張市	8：30～17：30
3/ 1	C 薬局	栃木県足利市	9：00～18：30
3/ 3	D 薬局	東京都狛江市	9：00～18：00
3/ 4	E 薬局	福島県郡山市	10：00～19：00
3/ 8	F 薬局	兵庫県川西市	9：00～20：00
3/10	G 薬局	東京都渋谷区	9：00～

			20:00
3/10	H薬局	福島県福島市	8:30 ~ 18:00
3/14	I薬局	富山県高岡市	8:30 ~ 18:30
3/17	J薬局	東京都練馬区	9:00 ~ 19:00

(3) 調査項目

ヒアリング結果をもとに、「調査日1日おける主たる業務区分別の業務時間構成」の表、また、タイムスタディ調査をもとに「1処方箋当たりの主たる業務区分別の業務時間」の表を作成した。

本調査では、1処方せんに係る下記の業務について所要時間等を委託調査にて計測した。

ただし、調査協力薬局によって業務の流れが異なり、それぞれ業務区分ごとに計測することが不可能であったため、薬局間での比較の際には大区分の設定を行う必要がある。

業務区分	業務内容
処方箋受付	患者が提出する保険証・処方箋を受け付ける業務
お薬手帳の確認・ジェネリック医薬品の希望確認	患者に対してお薬手帳の提出を求め、ジェネリック医薬品による調剤の希望の確認する業務
薬歴確認	薬歴簿から患者の薬歴を抽出する業務(システム対応する場合もある)
処方箋監査	処方箋の内容の監査を行う業務
医師への疑	処方箋の内容等に関し疑

義照会	義が生じた場合、処方医に対して電話等により照会を行う業務
薬袋準備・記入	薬を入れる袋を準備し、薬の用量・用法等を記入する業務
計数調剤	調剤棚から薬の処方量分を取り出す業務(システムと連動している場合もある)
計数調剤後の監査	調剤棚から取り出した薬が処方箋通りになっているかについて監査を行う業務
一包化調剤	複数種類の錠剤等を一包にまとめる業務(自動分包機)
半割調剤	1つの錠剤を割って半錠等にする業務
自家製剤による調剤	患者様が服薬しやすいように、の半割調剤以外に行う様々な業務(錠剤を粉砕して散剤(粉薬)とする、薬を溶かして点眼剤にして無菌処理する、主たる薬に基剤を加えて坐剤とする等)
計量調剤	散剤(粉薬)、液剤(水剤)、軟膏剤の複数の薬剤の量を計量して混ぜる業務
最終監査	全ての調剤終了後に、調剤した薬が処方箋通りになっているかについて監査を行う業務
薬剤交付・服薬指導(カウンター越し)	カウンター越しに患者様に薬を渡し、服薬指導を行い、会計する業務
服薬指導(患者様の座る待合席の隣)	患者様の座る待合席の隣

者の待合席等の隣で)	で、服薬指導(生活相談等も含む)を行う業務
調剤記録作成	調剤内容について記録(システム対応を含む)を行う業務
その他	2 に該当しない業務

2. アンケート調査(分担研究)について

タイムスタディ調査項目とリンクした項目を主として、今後の薬剤師に必要な内容を先駆的に取組んでいる地区薬剤師会の薬剤師にアンケートを実施し、先駆的な取組みをしている薬局・薬剤師において、業務時間の増減に関する内容を調査した。

C. 結果

1. タイムスタディ調査はそれぞれ次のとおり。

なお、集計表における業務区分には、下記の業務を含む。

受付・薬袋準備：処方箋受付、お薬手帳の確認・ジェネリック医薬品の希望確認、薬袋準備及び記入

薬歴確認・処方箋監査：薬歴確認、処方箋監査、医師への疑義照会

調剤：計数調剤、一包化調剤、半割調剤、自家製剤による調剤、計量調剤、計量調剤後の監査

監査：調剤後の監査

薬剤交付・服薬指導：カウンター越しの薬剤交付、カウンター越し又は待合席隣での服薬指導

(1) 各薬局の結果は以下のとおり。

1) A 薬局

調査実施時の基本情報

職員体制：薬剤師 3 人、事務職員 1 人

集計対象とした処方箋枚数：44 枚(調査日の処方箋受付枚数 64 枚)

2016 年 1 月の処方箋受付枚数の実績 1,273 枚

調査日 1 日における主たる業務区分別の業務時間構成

	業務時間計(時:分)			構成割合		
	薬剤師	事務職員	合計	薬剤師	事務職員	合計
開店前業務	0:40	0:10	0:50	2.8%	4.5%	3.0%
医療用医薬品の調剤業務	13:55	2:00	15:55	57.6%	54.5%	57.2%
在宅業務	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
一般用医薬品等の販売業務	0:05	0:00	0:05	0.3%	0.0%	0.3%
医薬品情報収集及び整理	0:10	0:00	0:10	0.7%	0.0%	0.6%
医薬品等の発注・卸対応	1:00	0:00	1:00	4.1%	0.0%	3.6%
医薬品等の補充	1:00	0:00	1:00	4.1%	0.0%	3.6%
レセプトの整理	0:00	0:10	0:10	0.0%	4.5%	0.6%
薬歴の入力	6:00	0:20	6:20	24.8%	9.1%	22.8%
会議・打合せ	0:05	0:00	0:05	0.3%	0.0%	0.3%
レジ開め・日計表作成	0:05	0:20	0:25	0.3%	9.1%	1.5%
店内清掃・片付け	1:10	0:20	1:30	4.8%	9.1%	5.4%
雑用	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0:00	0:20	0:20	0.0%	9.1%	1.2%
合計	24:10	3:40	27:50	100.0%	100.0%	100.0%
人数	3.0人	1.0人	4.0人			

1 処方箋当たりの主たる業務区分別の業務時間

	全体		計数調剤のみ		一包化調剤含む		計量調剤含む	
	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合
受付・薬袋準備	0:38	6.4%	0:38	7.5%	1:15	4.8%	0:32	3.6%
薬歴確認・処方箋監査	1:39	16.9%	1:29	17.7%	6:52	26.3%	1:47	12.1%
調剤	2:43	27.7%	1:41	20.0%	6:24	24.5%	7:31	51.2%
監査	2:54	29.6%	2:44	32.5%	8:48	33.7%	2:54	19.8%
薬剤交付・服薬指導	1:54	19.4%	1:53	22.3%	2:46	10.6%	1:56	13.2%
合計	9:50	100.0%	8:26	100.0%	26:05	100.0%	14:41	100.0%
処方箋枚数	44枚		36枚		1枚		7枚	

2) B 薬局

調査実施時の基本情報

職員体制：薬剤師 4 人、事務職員 2 人

集計対象とした処方箋枚数：42 枚（調査日の処方箋受付枚数 58 枚）

2016 年 1 月の処方箋受付枚数の実績 1,847 枚

調査日 1 日における主たる業務区分別の業務時間構成

	業務時間計（時：分）			構成割合		
	薬剤師	事務職員	合計	薬剤師	事務職員	合計
開店前業務	0:20	0:30	0:50	1.4%	4.1%	2.3%
医療用医薬品の調剤業務	15:20	7:00	22:20	62.7%	57.5%	61.0%
在宅業務	2:30	2:00	4:30	10.2%	16.4%	12.3%
一般用医薬品等の販売業務	0:00	0:10	0:10	0.0%	1.4%	0.5%
医薬品情報収集及び整理	0:50	0:10	1:00	3.4%	1.4%	2.7%
医薬品等の発注・卸対応	0:13	1:10	1:23	0.9%	9.6%	3.8%
医薬品等の補充	1:10	0:25	1:35	4.8%	3.4%	4.3%
レセプトの整理	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
薬歴の入力	3:25	0:00	3:25	14.0%	0.0%	9.3%
会議・打合せ	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
レジ開め、日計表作成	0:15	0:20	0:35	1.0%	2.7%	1.6%
店内清掃・片付け	0:25	0:25	0:50	1.7%	3.4%	2.3%
欄卸	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
合計	24:28	12:10	36:38	100.0%	100.0%	100.0%
人数	4.0人	2.0人	6.0人			

1 処方箋当たりの主たる業務区分別の業務時間

	全体		計数調剤のみ		一包装調剤含む		計量調剤含む	
	時間 (分：秒)	割合	時間 (分：秒)	割合	時間 (分：秒)	割合	時間 (分：秒)	割合
受付・薬袋準備	1:27	10.0%	1:23	14.7%	1:22	2.4%	2:03	13.1%
薬歴確認・処方箋監査	1:49	12.6%	0:33	5.9%	13:43	24.1%	0:46	4.9%
調剤	3:18	22.7%	1:14	13.1%	18:34	32.7%	5:43	36.3%
監査	3:53	26.7%	2:34	27.3%	15:50	27.9%	3:08	19.9%
薬剤交付・服薬指導	4:04	28.0%	3:41	39.1%	7:21	12.9%	4:03	25.8%
合計	14:34	100.0%	9:27	100.0%	56:51	100.0%	15:45	100.0%
処方箋枚数	42枚		34枚		4枚		4枚	

3) C 薬局

調査実施時の基本情報

職員体制：薬剤師 5 人、事務職員 3 人

集計対象とした処方箋枚数：63 枚（調査日の処方箋受付枚数 74 枚）

2016 年 1 月の処方箋受付枚数の実績 2,184 枚

調査日 1 日における主たる業務区分別の業務時間構成

	業務時間計（時：分）			構成割合		
	薬剤師	事務職員	合計	薬剤師	事務職員	合計
開店前業務	0:45	0:55	1:40	1.7%	6.1%	2.8%
医療用医薬品の調剤業務	28:50	6:40	35:30	65.8%	44.4%	60.3%
在宅業務	2:00	0:00	2:00	4.6%	0.0%	3.4%
一般用医薬品等の販売業務	0:00	0:30	0:30	0.0%	3.3%	0.8%
医薬品情報収集及び整理	3:25	0:00	3:25	7.8%	0.0%	5.8%
医薬品等の発注・卸対応	1:40	1:35	3:15	3.8%	10.6%	5.5%
医薬品等の補充	0:50	0:45	1:35	1.9%	5.0%	2.7%
レセプトの整理	0:00	3:00	3:00	0.0%	20.0%	5.1%
薬歴の入力	5:40	0:00	5:40	12.9%	0.0%	9.6%
会議・打合せ	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
レジ開め、日計表作成	0:00	1:00	1:00	0.0%	6.7%	1.7%
店内清掃・片付け	0:25	0:35	1:00	1.0%	3.9%	1.7%
欄卸	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0:15	0:00	0:15	0.6%	0.0%	0.4%
合計	43:50	15:00	58:50	100.0%	100.0%	100.0%
人数	5.0人	3.0人	8.0人			

1 処方箋当たりの主たる業務区分別の業務時間

	全体		計数調剤のみ		一包装調剤含む		計量調剤含む	
	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合
受付・薬袋準備	2:57	26.9%	2:38	29.3%	5:43	20.7%	5:37	24.5%
薬歴確認・処方箋監査								
調剤	2:03	18.8%	1:10	13.0%	10:08	36.7%	7:59	34.8%
監査	2:37	23.9%	2:01	22.4%	7:44	28.0%	6:10	26.9%
薬剤交付・服薬指導	3:19	30.3%	3:11	35.3%	4:00	14.5%	3:09	13.8%
合計	10:57	100.0%	9:03	100.0%	27:36	100.0%	22:56	100.0%
処方箋枚数	63枚		56枚		6枚		2枚	

4) D薬局

調査実施時の基本情報

職員体制：薬剤師 9人、事務職員 6人

集計対象とした処方箋枚数：61枚（調査日の処方箋受付枚数 195枚）

2016年1月の処方箋受付枚数の実績 4,908枚

調査日1日における主たる業務区分別の業務時間構成

	業務時間計(時:分)			構成割合		
	薬剤師	事務職員	合計	薬剤師	事務職員	合計
開店前業務	0:30	1:00	1:30	0.6%	2.6%	1.3%
医療用医薬品の調剤業務	60:30	31:20	91:50	77.7%	80.5%	78.6%
在宅業務	4:00	0:00	4:00	5.1%	0.0%	3.4%
一般用医薬品等の販売業務	0:00	0:05	0:05	0.0%	0.2%	0.1%
医薬品情報収集及び整理	1:30	0:00	1:30	1.9%	0.0%	1.3%
医薬品等の発注・卸対応	1:47	2:00	3:47	2.3%	5.1%	3.2%
医薬品等の補充	1:20	0:00	1:20	1.7%	0.0%	1.1%
レセプトの整理	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
薬歴の入力	7:25	0:00	7:25	9.5%	0.0%	6.4%
会議・打合せ	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
レジ開め・日計表作成	0:00	0:50	0:50	0.0%	2.1%	0.7%
店内清掃・片付け	0:50	3:40	4:30	1.1%	9.4%	3.9%
欄卸	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
合計	77:52	38:55	116:47	100.0%	100.0%	100.0%
人数	9.0人	6.0人	15.0人			

1処方箋当たりの主たる業務区分別の業務時間

	全体		計数調剤のみ		一包装調剤含む		計量調剤含む	
	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合
受付・薬袋準備	2:32	21.2%	2:26	22.2%	3:55	19.4%	3:11	14.0%
薬歴確認・処方箋監査	1:26	11.9%	1:21	12.4%	1:38	8.1%	2:30	11.0%
調剤	2:46	23.1%	2:19	21.2%	6:25	31.9%	7:20	32.2%
監査	3:02	25.3%	2:39	24.2%	7:06	35.3%	5:58	26.2%
薬剤交付・服薬指導	2:13	18.4%	2:11	20.0%	1:03	5.2%	3:46	16.6%
合計	12:01	100.0%	10:59	100.0%	20:08	100.0%	22:47	100.0%
処方箋枚数	61枚		55枚		3枚		3枚	

5) E薬局

調査実施時の基本情報

職員体制：薬剤師 2人

集計対象とした処方箋枚数：14枚（調査日の処方箋受付枚数 18枚）

2016年1月の処方箋受付枚数の実績 270枚

調査日1日における主たる業務区分別の業務時間構成

	業務時間計(時:分)			構成割合		
	薬剤師	事務職員	合計	薬剤師	事務職員	合計
開店前業務	0:20	-	0:20	2.1%	-	2.1%
医療用医薬品の調剤業務	6:00	-	6:00	38.3%	-	38.3%
在宅業務	0:00	-	0:00	0.0%	-	0.0%
一般用医薬品等の販売業務	1:00	-	1:00	6.4%	-	6.4%
医薬品情報収集及び整理	0:10	-	0:10	1.1%	-	1.1%
医薬品等の発注・卸対応	0:45	-	0:45	4.8%	-	4.8%
医薬品等の補充	0:20	-	0:20	2.1%	-	2.1%
レセプトの整理	0:00	-	0:00	0.0%	-	0.0%
薬歴の入力	1:20	-	1:20	8.5%	-	8.5%
会議・打合せ	0:00	-	0:00	0.0%	-	0.0%
レジ開め・日計表作成	0:40	-	0:40	4.3%	-	4.3%
店内清掃・片付け	0:20	-	0:20	2.1%	-	2.1%
欄卸	0:00	-	0:00	0.0%	-	0.0%
その他	4:45	-	4:45	30.3%	-	30.3%
合計	15:40	-	15:40	100.0%	-	100.0%
人数	2.0人	0.0人	2.0人			

1処方箋当たりの主たる業務区分別の業務時間

	全体		計数調剤のみ		一包装調剤含む		計量調剤含む	
	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合
受付・薬袋準備	1:25	11.2%	1:35	11.9%	0:22	4.8%	-	-
薬歴確認・処方箋監査	2:36	20.6%	2:50	21.2%	1:10	14.9%	-	-
調剤	2:57	23.5%	2:56	21.9%	3:08	39.7%	-	-
監査	2:26	19.3%	2:44	20.5%	0:35	7.5%	-	-
薬剤交付・服薬指導	3:12	25.4%	3:18	24.6%	2:36	33.1%	-	-
合計	12:37	100.0%	13:24	100.0%	7:53	100.0%	-	-
処方箋枚数	14枚		12枚		2枚		0枚	

6) F 薬局

調査実施時の基本情報

職員体制：薬剤師 16 人、事務職員 7 人

集計対象とした処方箋枚数：41 枚（調査日の処方箋受付枚数 130 枚）

2016 年 1 月の処方箋受付枚数の実績 2,342 枚

調査日 1 日における主たる業務区分別の業務時間構成

	業務時間計(時:分)			構成割合		
	薬剤師	事務職員	合計	薬剤師	事務職員	合計
開店前業務	0:15	0:10	0:25	0.2%	0.5%	0.3%
医療用医薬品の調剤業務	56:00	12:40	68:40	52.2%	38.6%	49.0%
在宅業務	37:00	0:00	37:00	34.5%	0.0%	26.4%
一般用医薬品等の販売業務	0:10	0:10	0:20	0.2%	0.5%	0.2%
医薬品情報収集及び整理	1:30	0:00	1:30	1.4%	0.0%	1.1%
医薬品等の発注・卸対応	1:45	0:00	1:45	1.6%	0.0%	1.2%
医薬品等の補充	1:45	0:00	1:45	1.6%	0.0%	1.2%
レセプトの整理	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
薬理の入力	8:30	0:00	8:30	7.9%	0.0%	6.1%
会議・打合せ	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
レジ開め・日計表作成	0:00	0:30	0:30	0.0%	1.5%	0.4%
店内清掃・片付け	0:25	0:10	0:35	0.4%	0.5%	0.4%
雑用	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0:00	19:10	19:10	0.0%	58.4%	13.7%
合計	107:20	32:50	140:10	100.0%	100.0%	100.0%
人数	15.0人	4.0人	19.0人			

1 処方箋当たりの主たる業務区分別の業務時間

	全体		計数調剤のみ		一包装調剤含む		計量調剤含む	
	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合
受付・薬袋準備	1:26	14.2%	1:34	15.9%	0:37	5.2%	-	-
薬歴確認・処方箋監査	2:36	25.7%	2:22	24.0%	4:08	34.4%	-	-
調剤	3:56	38.8%	3:43	37.8%	5:22	44.6%	-	-
監査	2:09	21.3%	2:11	22.3%	1:54	15.8%	-	-
薬剤交付・服薬指導	2:09	21.3%	2:11	22.3%	1:54	15.8%	-	-
合計	10:08	100.0%	9:51	100.0%	12:02	100.0%	-	-
処方箋枚数	15枚		13枚		2枚		0枚	

7) G 薬局

基本情報

職員体制：薬剤師 4 人、事務職員 1 人

集計対象とした処方箋枚数：50 枚（調査日の処方箋受付枚数 64 枚）

2016 年 1 月の処方箋受付枚数の実績 1,507 枚

調査日 1 日における主たる業務区分別の業務時間構成

	業務時間計(時:分)			構成割合		
	薬剤師	事務職員	合計	薬剤師	事務職員	合計
開店前業務	0:15	0:00	0:15	0.8%	0.0%	0.8%
医療用医薬品の調剤業務	24:30	0:00	24:30	81.9%	0.0%	73.7%
在宅業務	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
一般用医薬品等の販売業務	1:05	0:10	1:15	3.6%	5.0%	3.8%
医薬品情報収集及び整理	0:20	0:00	0:20	1.1%	0.0%	1.0%
医薬品等の発注・卸対応	0:20	0:05	0:25	1.1%	2.5%	1.3%
医薬品等の補充	0:40	0:05	0:45	2.2%	2.5%	2.3%
レセプトの整理	0:00	0:30	0:30	0.0%	15.0%	1.5%
薬理の入力	2:10	0:00	2:10	7.2%	0.0%	6.5%
会議・打合せ	0:10	2:30	2:40	0.6%	75.0%	8.0%
レジ開め・日計表作成	0:10	0:00	0:10	0.6%	0.0%	0.5%
店内清掃・片付け	0:15	0:00	0:15	0.8%	0.0%	0.8%
雑用	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
合計	29:55	3:20	33:15	100.0%	100.0%	100.0%
人数	4.0人	1.0人	5.0人			

1 処方箋当たりの主たる業務区分別の業務時間

	全体		計数調剤のみ		一包装調剤含む		計量調剤含む	
	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合
受付・薬袋準備	3:47	28.8%	3:34	27.9%	2:43	21.9%	5:02	33.6%
薬歴確認・処方箋監査								
調剤	1:59	15.1%	1:57	15.3%	3:30	28.2%	1:56	12.9%
監査	3:30	26.6%	3:25	26.7%	3:10	25.5%	4:00	26.7%
薬剤交付・服薬指導	3:52	29.4%	3:51	30.2%	3:01	24.3%	4:00	26.7%
合計	13:09	100.0%	12:49	100.0%	12:24	100.0%	15:00	100.0%
処方箋枚数	50枚		41枚		1枚		8枚	

	全体		計数調剤のみ		一包装調剤含む		計量調剤含む	
	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合
受付・薬袋準備	0:21	3.2%	0:21	4.1%	0:22	1.3%	0:18	1.4%
薬歴確認・処方箋監査	1:47	16.5%	1:32	17.7%	3:10	11.2%	3:42	17.2%
調剤	2:33	23.6%	1:30	17.2%	9:55	34.9%	9:01	41.9%
監査	3:09	29.0%	2:42	31.1%	7:04	24.9%	5:04	23.6%
薬剤交付・服薬指導	3:00	27.7%	2:36	29.9%	7:51	27.7%	3:26	15.9%
合計	10:52	100.0%	8:42	100.0%	28:24	100.0%	21:32	100.0%
処方箋枚数	45枚		39枚		3枚		3枚	

8) H薬局

調査実施時の基本情報

職員体制：薬剤師 4人、事務職員 3人

集計対象とした処方箋枚数：45 枚（調査日の処方箋受付枚数 114 枚）

2016 年 1 月の処方箋受付枚数の実績 3,196 枚

調査日 1 日における主たる業務区分別の業務時間構成

	業務時間計(時:分)			構成割合		
	薬剤師	事務職員	合計	薬剤師	事務職員	合計
開店前業務	0:40	0:30	1:10	2.6%	2.2%	2.4%
医療用医薬品の調剤業務	16:20	16:10	32:30	64.4%	70.8%	67.5%
在宅業務	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
一般用医薬品等の販売業務	0:22	0:00	0:22	1.4%	0.0%	0.8%
医薬品情報収集及び整理	0:25	0:00	0:25	1.6%	0.0%	0.9%
医薬品等の発注・卸対応	0:32	0:40	1:12	2.1%	2.9%	2.5%
医薬品等の補充	1:30	1:30	3:00	5.9%	6.6%	6.2%
レセプトの整理	0:00	3:00	3:00	0.0%	13.1%	6.2%
薬歴の入力	5:00	0:00	5:00	19.7%	0.0%	10.4%
会議・打合せ	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
レジ開め・日計表作成	0:08	0:45	0:53	0.5%	3.3%	1.8%
店内清掃・片付け	0:24	0:15	0:39	1.6%	1.1%	1.3%
離卸	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
合計	25:21	22:50	48:11	100.0%	100.0%	100.0%
人数	4.0人	3.0人	7.0人			

1 処方箋当たりの主たる業務区分別の業務時間

9) I薬局

調査実施時の基本情報

職員体制：薬剤師 5人、事務職員 1人

集計対象とした処方箋枚数：65 枚（調査日の処方箋受付枚数 77 枚）

2016 年 1 月の処方箋受付枚数の実績 1,380 枚

調査日 1 日における主たる業務区分別の業務時間構成

	業務時間計(時:分)			構成割合		
	薬剤師	事務職員	合計	薬剤師	事務職員	合計
開店前業務	0:40	-	0:40	1.7%	-	1.7%
医療用医薬品の調剤業務	22:50	-	22:50	57.4%	-	57.4%
在宅業務	0:00	-	0:00	0.0%	-	0.0%
一般用医薬品等の販売業務	0:05	-	0:05	0.2%	-	0.2%
医薬品情報収集及び整理	0:45	-	0:45	1.9%	-	1.9%
医薬品等の発注・卸対応	1:05	-	1:05	2.7%	-	2.7%
医薬品等の補充	0:50	-	0:50	2.1%	-	2.1%
レセプトの整理	0:00	-	0:00	0.0%	-	0.0%
薬歴の入力	7:05	-	7:05	17.8%	-	17.8%
会議・打合せ	0:25	-	0:25	1.0%	-	1.0%
レジ開め・日計表作成	0:25	-	0:25	1.0%	-	1.0%
店内清掃・片付け	0:35	-	0:35	1.5%	-	1.5%
離卸	0:00	-	0:00	0.0%	-	0.0%
その他	5:00	-	5:00	12.6%	-	12.6%
合計	39:45	-	39:45	100.0%	-	100.0%
人数	5.0人	0.0人	5.0人			

1 処方箋当たりの主たる業務区分別の業務時間

	全体		計数調剤のみ		一包装調剤含む		計量調剤含む	
	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合
受付・薬袋準備	0:16	2.2%	0:16	2.5%	0:11	0.6%	0:15	1.4%
薬歴確認・処方箋監査	3:01	23.8%	2:54	26.0%	4:35	14.9%	3:51	20.2%
調剤	3:05	24.3%	1:52	16.8%	16:22	53.3%	8:04	42.3%
監査	3:45	29.5%	3:27	31.0%	7:25	24.2%	5:24	28.3%
薬剤交付・服薬指導	2:34	20.2%	2:39	23.7%	2:08	7.0%	1:30	7.9%
合計	12:43	100.0%	11:10	100.0%	30:42	100.0%	19:06	100.0%
処方箋枚数	65枚		58枚		5枚		3枚	

10) J 薬局

調査実施時の基本情報

職員体制：薬剤師 6 人、事務職員 2 人

集計対象とした処方箋枚数：75 枚（調査日の処方箋受付枚数 112 枚）

2016 年 1 月の処方箋受付枚数の実績 3,487 枚

調査日 1 日における主たる業務区分別の業務時間構成

	業務時間計(時:分)			構成割合		
	薬剤師	事務職員	合計	薬剤師	事務職員	合計
開店前業務	1:45	0:30	2:15	3.9%	11.1%	4.6%
医療用医薬品の調剤業務	27:30	0:00	27:30	61.8%	0.0%	56.1%
在宅業務	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
一般用医薬品等の販売業務	0:30	0:00	0:30	1.1%	0.0%	1.0%
医薬品情報収集及び整理	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
医薬品等の発注・卸対応	1:00	2:00	3:00	2.2%	44.4%	6.1%
医薬品等の補充	4:00	0:00	4:00	9.0%	0.0%	8.2%
レセプトの整理	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
薬歴の入力	9:30	0:00	9:30	21.3%	0.0%	19.4%
会議・打合せ	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
レジ開め・目録表作成	0:00	1:00	1:00	0.0%	22.2%	2.0%
店内清掃・片付け	0:15	1:00	1:15	0.6%	22.2%	2.6%
離脚	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0:00	0:00	0:00	0.0%	0.0%	0.0%
合計	44:30	4:30	49:00	100.0%	100.0%	100.0%
人数	6.0人	2.0人	8.0人			

1 処方箋当たりの主たる業務区分別の業務

時間

	全体		計数調剤のみ		一包装調剤含む		計量調剤含む	
	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合	時間 (分:秒)	割合
受付・薬袋準備	1:18	10.3%	1:15	10.6%	3:05	7.8%	1:06	8.5%
薬歴確認・処方箋監査								
調剤	2:31	20.0%	1:57	16.5%	19:01	48.2%	4:55	37.7%
監査	3:58	31.4%	3:39	30.7%	14:36	37.0%	4:25	33.9%
薬剤交付・服薬指導	4:52	38.4%	5:01	42.2%	2:45	7.0%	2:36	20.0%
合計	12:41	100.0%	11:54	100.0%	39:28	100.0%	13:04	100.0%
処方箋枚数	75枚		70枚		2枚		3枚	

(2) 10 薬局の全体的な状況

調査日 1 日における主たる業務区分別の業務時間構成

いずれの薬局も「医療用医薬品の調剤業務」の時間が最も多く、構成割合としては、38.3%～78.6%であった。次いで構成割合が高かったのは、「薬歴の入力」（6 薬局）であったが、「薬歴の入力」よりも、「在宅業務」（2 薬局）、「会議」と「その他」（1 薬局）が多いところもあった。

1 処方箋当たりの主たる業務区分別の業務時間

それぞれの薬局について、調査日の処方箋枚数は、1 か月あたりの処方箋枚数からみて標準的なものであった。1 処方箋あたりに要する時間は、9 分 50 秒～14 分 34 秒で、業務割合としては、割合にそれ程大きな差はなかったものの、「監査」の割合（全体の割合：25.3%～38.8%）が最も多かった薬局が 5 薬局、「薬剤交付・服薬指導」の割合（25.4%～38.4%）が最も多かった薬局が 5 薬局であった。

2. アンケート調査の結果

残薬等の先駆的な取組みを実施している薬

局薬剤師 21 名(男性 7 割、女性 3 割)からの回答では、従前からの業務全体で業務時間が増加しているとの意見がでていたが、特に、「薬剤準備・記入」については、業務時間が増加との回答は 9.5%であったのに対し、業務時間が減少との回答は 47.6%であった。

業務時間が増加しているとの回答で、多い選択肢としては、「16 ジェネリックの説明やお薬手帳の確認」、「08 一包化調剤」、「03 薬歴確認」、「13 薬剤交付・指導」等であった。

業務時間増加の理由としては、概ね全ての項目について、業務時間増加の理由として挙げられているが、「高齢者等で一人当たりの処方される薬剤の数が多いため」が最も多く、次いで、「安全等の観点からその業務の実施時間が増えた」及び「ジェネリックが増えてきたため」であった。

業務時間減少の理由としては、「機械の進歩によるため」が最も多かった。

D. 考察

薬局・薬剤師のこれからの重要な業務は、薬局ビジョンにも書かれているとおり、対人業務を主体とした業務の実施である。特に、これから高齢化が進む中で、高齢者の投薬について、複数の医療機関から合計 10 種類を超えて投薬されている報告等について中央社会保険医療協議会においても議論となっており、薬剤師による多剤併用の調整等の服薬支援を実施や、医療経済も踏まえたジェネリックの使用促進、予防も含めた健康増進への取り組みの実施はますます重要となってきている。

薬局・薬剤師の業務量の現状については、1 日の業務からみた業務時間構成としては、医療用医薬品の調剤業務が最も多くなっており、6 割前後の割合が多かったが、面分業の薬局や処

方箋集中率の低い薬局では、在宅業務やその他の業務割合が増え、調剤業務は 4 割前後となっている。

また、1 処方箋あたりで、主たる業務区分別の業務時間の割合をみると、割合は僅差ながらも、「監査」や「薬剤交付・服薬指導」の割合が多くなってきている。引き続き、調査を実施し、対物業から対人業務へのシフトがどのように進んでいるか、経時的変化も見ていく必要がある。

なお、1 処方箋の全体時間は、10 薬局という限られた調査対象の中では、9 分 50 秒～14 分 34 秒であったが、これは、1 薬局 40 枚で 1 薬剤師が必要としている現状に概ね合致していると考えられる。ただし、12 分を超える場合には 8 時間を超えてしまうこと、さらに、今後、対人業務にシフトする中で、1 処方箋あたりの時間が増えるのか減るのか、さらに、薬剤師の業務の見直し等の中で、引き続き検討すべきである。

分担研究におけるアンケート調査の結果からは、機械化の導入により一部の業務は効率化・円滑化されている面もあるものの、先駆的な取り組みを実施している薬局・薬剤師においては、概ね全ての業務が増加しているとの状況であり、特に、高齢者の多剤併用が進む中で、ジェネリックの説明やお薬手帳の確認、一包化調剤、薬歴確認、薬剤交付・指導業務について、その業務時間が増えている。

現在、処方箋薬の調剤を実施しようとする場合、薬剤師法において、『薬剤師でない者は、販売又は授与の目的で調剤してはならない。』とされており、処方箋受付から薬剤交付にいたる全ての業務に加え、薬歴や患者ヒアリングからの患者の薬物療法に関する状況の確認や、

ジェネリックの説明等を行うとともに、残薬確認や在宅医療への積極的関与も必要になる。さらに、かかりつけ薬局・薬剤師の制度導入に伴い、調剤対応中の電話相談や窓口相談等も対応していく必要があり、これらすべてを薬剤師が実施することには限界もあり、かつ非効率的である。

今後は、機械化や ICT 化により、軽減できる業務をより明確化し、薬歴や患者ヒアリングからの患者の薬物療法に関する状況の確認、ジェネリックの説明等への業務主体の移行を進めていかなければならない。また、業務把握にかかるタイムスタディ調査の実施に際しては、残薬確認や在宅医療への積極的関与の状況や、かかりつけ薬局・薬剤師業務の実施状況等について、十分に把握できるよう検討を進め、そのような新たな薬剤師業務の実施状況をわかりやすい形で情報提供していくことも重要である。

E. 結論

今回、薬局の地域や立地等での違いによる業務の違いについて現状の把握を行ったが、「患者のための薬局ビジョン」の公表、平成 28 年調剤報酬改定等による薬剤師業務に関する業務や制度の大きな変換の中で、今後の薬局・薬剤師の適正業務を把握するためには、対人業務や残薬対応等での業務量の増加の割合と、これまでの調剤業務で減少できる業務について、明確に把握できるよう、継続的なタイムスタディ調査等の実施が必要である。

なお、その際、今回のタイムスタディ調査での課題についても整理し、特に、残薬対応や在宅医療への参加、かかりつけ薬局・薬剤師業務の実施状況等のこれからの変化に対応し、より明確に把握できよう調査設計等を検討して

いくことが重要である。

F. 参考文献

1. 患者のための薬局ビジョン

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000102179.html>

2. 厚生労働省ホームページ、中医協資料

<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku-Iryouka/0000103301.pdf>

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)
分担研究報告書

薬局・薬剤師の適正業務に関する調査研究
分担研究者 益山 光一 東京薬科大学薬学部薬事関係法規教授

研究要旨

平成27年10月23日に厚生労働省が公表した「患者のための薬局ビジョン」において、薬局・薬剤師は、従来の対物業務から、在宅対応も通じた継続的な服薬状況・副作用等のモニタリング、それを踏まえた医師へのフィードバックや処方提案、残薬解消など、患者が医薬分業のメリットを実感できる対人業務へのシフトを図ること、さらに、薬局におけるタイムスタディ調査を実施し、調剤技術の進展、機械化の状況など、最新の状況に応じた薬剤師業務の実態を把握することについて言及されている。

そのため、薬局・薬剤師の業務実態に向けて、タイムスタディ調査の実施を行っているが、タイムスタディ調査に関しては、薬局における業務実態の概要について把握することができる一方、調査内容が部分的ないし限定的な実施になることや調査対象数が限定されること等の課題もある。

本分担研究では、「患者のための薬局ビジョン」の公表後の状況下において、今後の薬局・薬剤師の適正業務について、今回のタイムスタディ調査で把握できなかった点や今後タイムスタディ調査で把握すべき点について検討を行うべく、残薬対応等の先駆的な取り組みを実施している地区薬剤会のメンバーからのアンケート結果、過去のタイムスタディ調査結果等を踏まえ、その内容適正化可能な業務内容や今後の薬局業務のあり方について検討を行った。

研究協力者

菅原健太 東京薬科大学薬学部学生

タイムスタディ調査に関しては、薬局における業務実態の概要について把握することができる一方、調査内容が部分的ないし限定的な実施になることや調査対象数が限定されること等の課題もある。

A . 研究目的

平成 27 年 10 月 23 日に厚生労働省が公表した「患者のための薬局ビジョン」において、薬局・薬剤師は、従来の対物業務から、在宅対応も通じた継続的な服薬状況・副作用等のモニタリング、それを踏まえた医師へのフィードバックや処方提案、残薬解消など、患者が医薬分業のメリットを実感できる対人業務へのシフトを図ること、さらに、薬局におけるタイムスタディ調査を実施し、調剤技術の進展、機械化の状況など、最新の状況に応じた薬剤師業務の実態を把握することについて言及されている。

そのため、薬局・薬剤師の業務実態に向けて、タイムスタディ調査の実施を行っているが、タ

本研究では、従来の調査方法も加味した薬局・薬剤師のタイムスタディ調査に、今後の課題となる視点や自由記載でのアンケートを、地区薬剤師会として、残薬対策等の先駆的な取り組みを実施している薬剤師の協力を得て、トライアル的に実施し、その回答結果について考察し、タイムスタディ調査において、調剤技術の進展、機械化の状況など、最新の状況に応じた薬剤師業務の実態を把握するための今後の調査方法及び、薬剤師の適正業務への移行に向けて必要な対応等の検討を行った。

B . 研究方法

タイムスタディ調査と並行し、タイムスタディ調査項目とリンクした項目を主として、今後の薬剤師に必要な内容を先駆的に取り組んでいる地区薬剤師会の薬剤師に依頼対し、下記の【アンケート】を実施した。

なお、今回のアンケートは、今後の「患者のための薬局ビジョン」の課題として挙げられている「調剤技術の進展、機械化の状況など、最新の状況に応じた薬剤師業務の実態を把握」に向けて必要な調査項目の検討に向けて、トリアル的に実施した。

【アンケート】

回答者には、薬局薬剤師歴と性別の記載をお願いし、下記の3つの問に回答をお願いした。

問1 .あなたの薬局の業務について、ここ最近(2~3年)、業務時間が増えてきていると感じる業務、減ってきているものを選んでください。選択数に制限なし。

- 0 1 処方箋受付
- 0 2 処方箋監査
- 0 3 薬歴確認
- 0 4 医師への疑義照会
- 0 5 薬袋準備・記入
- 0 6 計数調剤
- 0 7 計数調剤後の監査
- 0 8 一包化調剤
- 0 9 半割調剤
- 1 0 自家製剤による調剤
- 1 1 計量調剤
- 1 2 最終監査
- 1 3 薬剤交付・指導
- 1 4 調剤記録作成
- 1 5 在宅業務
- 1 6 ジェネリックの説明やお薬手帳の

確認

1 7 その他

問2 .増えてきているものを選択された方はお答えください。(複数回答可)

増えてきている理由は何だと思いますか。

該当するものに をつけてください。

- 0 1 高齢者等で一人当たりの処方される薬剤の数が多いため
- 0 2 安全等の観点からその業務の実施時間が増えた。
- 0 3 ジェネリックが増えてきたため。
- 0 4 患者の要望等が増えてきたため
- 0 5 在宅患者が増えてきているため。
- 0 6 その他(以下に自由にお書きください)

問3 .減ってきている理由は何だと思いますか。該当するものすべてに をつけてください。

- 0 1 機械の進歩によるため。
- 0 2 同じ患者で特に説明や質問が必要ないため
- 0 3 多様な薬剤が増えたため。
- 0 4 自家製剤を実施しなくなったため。
- 0 5 その他(以下に自由にお書きください。)

C . 結果

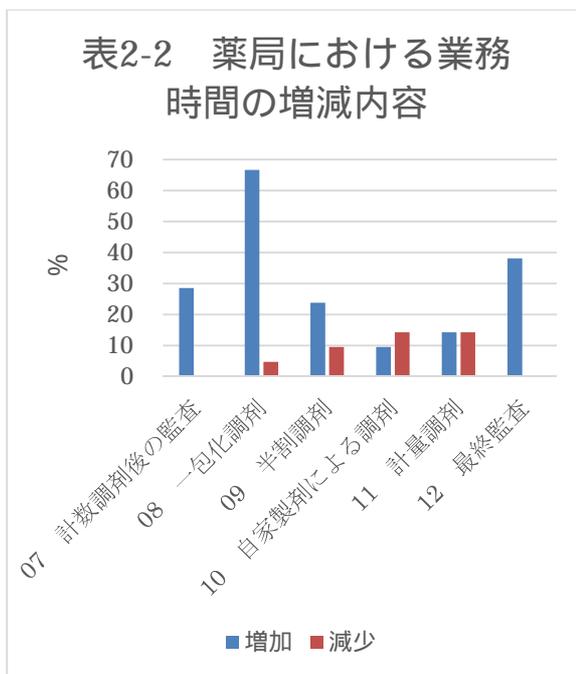
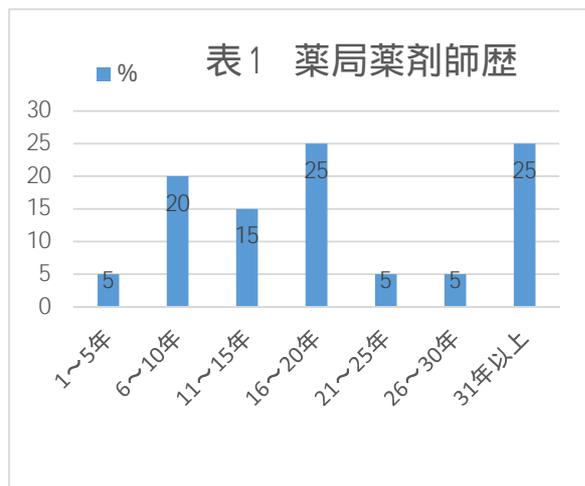
1 .アンケートの結果

結果は次のとおり。

(1)回答者について

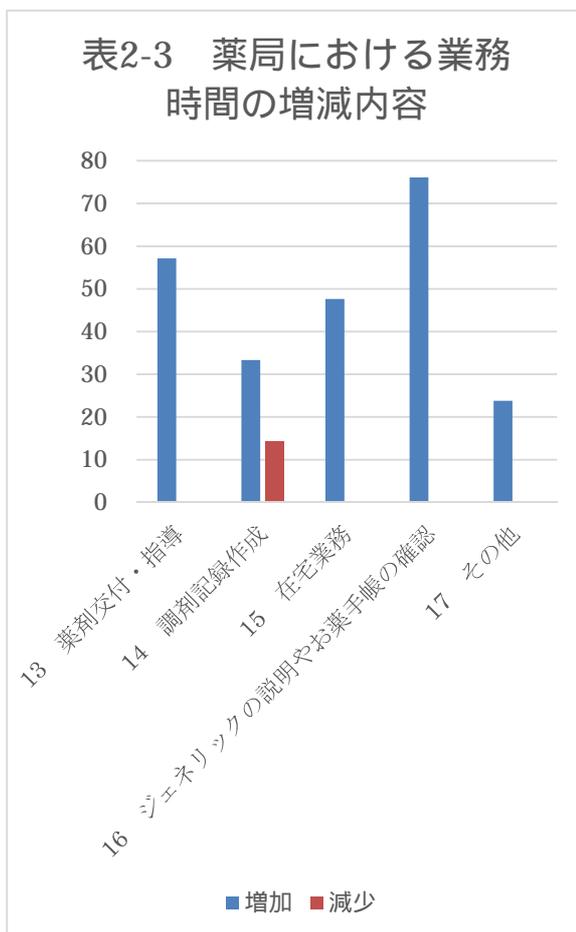
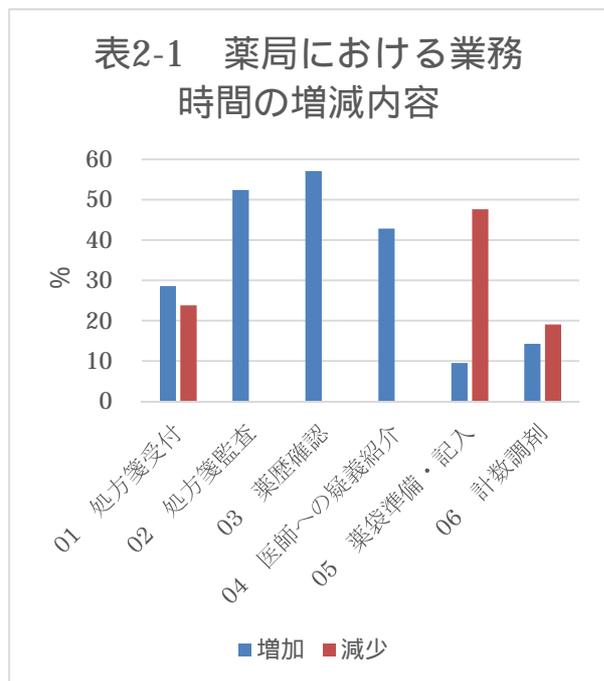
アンケート調査は、滋賀県薬剤師会、福岡市薬剤師会、鹿児島県薬剤師会の協力の下、残薬等の先駆的な取り組みに関係する薬剤師を対象として、最終的に21名に対して実施した。薬局薬剤師歴は表1のとおりで、男女の割合は、

男性が7割、女性が3割であった。



(2) 回答状況について

薬局における業務時間の増減項目(問1)の調査結果について
 調査結果については下記の表2-1~2-3 とおり。



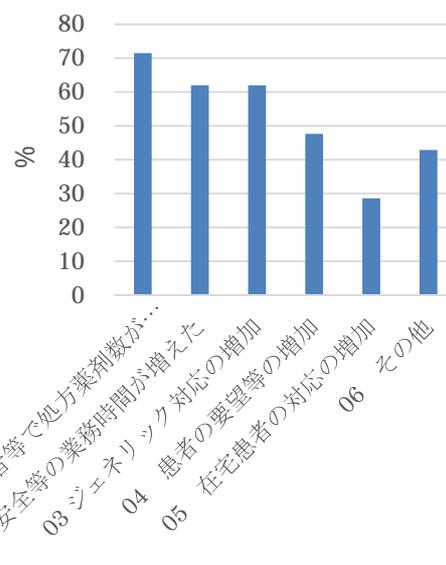
今回の項目について、ほとんどの項目で業務時間が増加しているとの意見がでていたが、特筆すべきは、「05 薬袋準備・記入（業務時間が増加との回答は 10%。業務時間が減少との回答は 48%で、減少に関する回答項目で最も多かった。）」、「06 計数調剤（業務時間が増加との回答は 14%。業務時間が減少との回答は 19%）」については、増加しているとの回答数よりも減少の回答数が多かった。

業務時間が増加しているとの回答で、選択者の多かった選択肢は、「16 ジェネリックの説明やお薬手帳の確認」が 76%、「08 一包化調剤」が 67%、「03 薬歴確認」及び「13 薬剤交付・指導」が 57%、「02 処方箋監査」が 52%、「15 在宅業務」が 48%であった。また、「17 その他」の自由記載欄での具体的記載内容としては、残薬調整及びアドヒアランス向上に関する取り組み、薬歴記入があった。

業務時間増加の理由(問2)の調査結果について

問1の項目に対して業務時間が増えてきている理由として該当するものを全てに回答してもらった。調査結果については下記の表3とあり。

表3 業務時間増加の理由



概ね全ての項目について、業務時間増加の理由として挙げられたが、特に、「01 高齢者等で一人当たりの処方される薬剤の数が多いため」が 71%と最も多く、次いで、「02 安全等の観点からその業務の実施時間が増えた」及び「03 ジェネリックが増えてきたため」の 62%であった。

また、「06 その他」の自由記載欄への具体的回答としては、

残薬の整理との旨の回答が 4 件、

認知力の低下や認知症患者、またその家族への情報提供にかかる時間が増えている旨の回答が 3 件

業務の複雑化(具体的には調剤報酬改定についての説明や、健康食品・健康相談への対応、時間外の間合わせや電話による再度の説明)の旨の回答が 3 件、

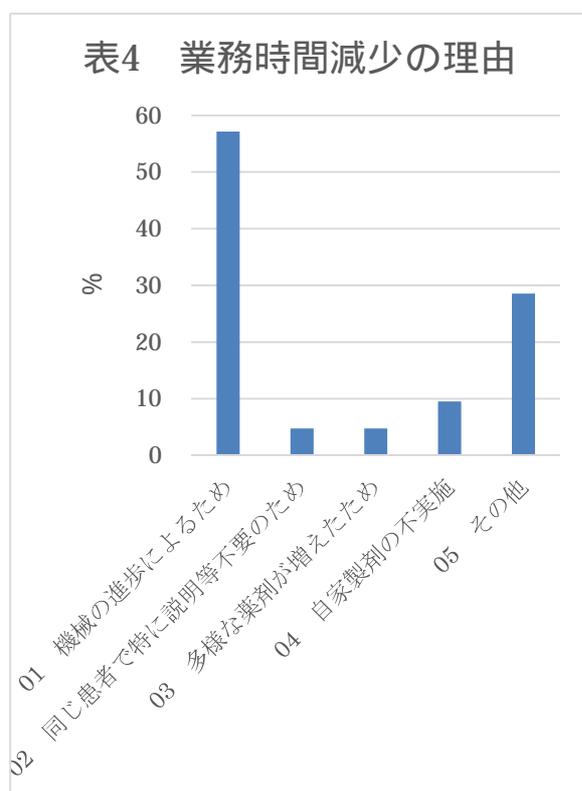
薬局へ来訪される患者が高齢化し、また一人で来られるために情報提供・相談・服薬支援が増えている旨の回答が 2 件

患者や医薬品の情報収集との旨の回答が

2件、
 薬歴記載との旨の回答が2件、
 検査値の記載による処方箋監査が増えている旨の回答が3件、
 その他、死亡後の麻薬処理を挙げているものが1件あった。

業務時間減少の理由(問3)の調査結果について

問1の項目に対して業務時間が減ってきている理由として該当するものを全てに回答してもらった。調査結果については下記の表4とあり。



業務量減少の理由については、「01 機械の進歩によるため」が57%で最も多く、残りの選択肢はその他を除いて10%未満であった。その他の自由記載欄への具体的回答としては、

患者数減少により受付回数の減少、
 印字による印刷、
 業務への慣れ、
 薬局数の増加、
 専門医院が近所にでき合わせて門前薬局もできたため、
 小児患者減少による計量調剤の減少
 との回答がそれぞれ1件ずつあった。

D. 考察

薬局・薬剤師の業務量については、機械化の発展等により一部の業務は効率化・円滑化されている面もあるものの、先駆的な取り組みを実施している薬局・薬剤師においては、概ね全ての業務が増加しているとの状況であった。特に、高齢化等の課題から多剤併用が増えている中、ジェネリックの説明やお薬手帳の確認、一包化調剤、薬歴確認、薬剤交付・指導業務についても、その業務時間が増えているためであるといえる。

今後、「患者のための薬局ビジョン」で主眼とする対物業務から対人業務への移行の中で、これまでの調剤業務に加え、薬歴や患者ヒアリングからの患者の薬物療法に関する状況の確認や、ジェネリックの説明等を行うとともに、さらに、残薬確認や在宅医療への積極的関与、かかりつけ患者への薬物療法支援や健康増進へのサポート等の実施も求められている。

薬局・薬剤師の適正業務として、これらの業務をいかに実施しているかが評価に関係すると考えられることから、タイムスタディ調査によって明確に把握できるよう今後の業務に関する調査手法を検討しておくとともに、かかりつけ薬剤師・薬局の取り組みの進む中で薬剤師の調剤業務等の本質についても検討することが必要であるといえる。

E. 結論

これからの薬局・薬剤師は、患者のための適切な医薬分業を進めていくため、服薬指導、患者からの相談、在宅対応などの業務を適切に実施する必要があるが、医療安全の観点から、従前の調剤業務も適切に実施しなくてはならず、結果として、今回のアンケート対象の先駆的な取組みを実施している薬局・薬剤師の回答にもあったとおり、概ね全ての業務が増加する傾向にあるといえる。

そのため、機械化や ICT 化の発展により効率化・円滑化できる業務はその活用を促進するとともに、薬剤師の行うべき本質的な調剤業務等の見直しも今後必要になると考える。

また、「かかりつけ薬剤師・薬局」に関する一般の理解の促進を図るためにも、薬局・薬剤師の適正業務の内容とその業務量の明確化を行うとともに、その業務実態についての見える化の実施が必要である。

なお、業務実態の見える化に際しては、今回のタイムスタディ調査での課題についても整理し、特に、健康サポート、残薬対応や在宅医療への参加等のこれからの変化に対応し、十分に把握できるように調査設計等を行った上で実施することが重要である。

F. 参考文献

患者のための薬局ビジョン

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000102179.html>

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

別添 5

研究成果の刊行に関する一覧表

論文

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
なし					